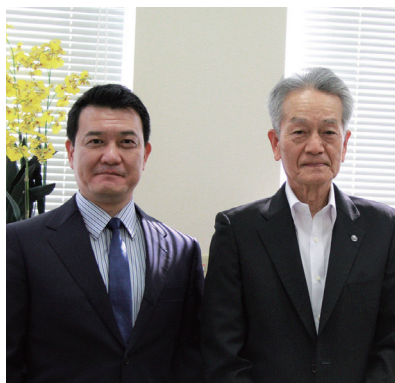


税理士法人長谷川会計事務所 将来に向かって、長く寄り添う



同社は長期間契約されるクライアントが多いだけでなく、スタッフも離職率が低いため、担当者による長期間のサポートが可能となっている。近年は業務が立て込んでおり、「未経験でもやってみたいという方、私たちの理念に賛同していただける方を募集しています」と岩本達之所長(写真右・右側)。長谷川薫会長(写真右・左側)と。

大変な時こそ力になってあげられる会計事務所に

幅広い業種をクライアントに持つ長谷川会計事務所は、中小企業から上場を目指す企業の会計処理にも対応している。東京の大手監査法人に勤務していた岩本所長のネットワークと、同社がこれまでに培ってきたネットワークを駆使し、レベルの高い税務顧問、経営サポート、コンサルティングを受けられるのが魅力だ。岩本所長は「規模が小さい会社では法律や労務、会計の専門家が社内にいるわけではないので、信頼のおけるパートナーを紹介しながらサポートしています」と話す。ビジネスは多くの協力関係の中で発展していくため、さまざまな人や企業との関係性が重要となる。そこで同社は、初代所長の時代に異業種交流会「宇都宮新協クラブ」を発足し、事業に有益なチャンスを作るきっかけの場も提供してきた。

クライアントの中には、新型コロナウイルス蔓延防止、緊急事態宣言等で多大な影響を受けた企業も多く、国や地方公共団体の支援、助成金、補助金、融資の申請手続きのサポートについては無料で行っている。こうした取り組みについて、岩本所長は「コロナ禍で売り上げが下がったり営業を停止しなければいけない企業が多い中で、自分たちができることをしようと判断しました」と説明。その結果、クライアントに喜んでもらえただけでなく、

く、思わぬところから新たなオファアの声が掛かるなど、「やって良かった」としみじみと感想を口にした。

こうした姿勢でも分かるように、岩本所長が最も大切にしているのは、クライアントと長く寄り添う気持ちと互いの信頼関係だ。「税理士が間違った処理や不適正なことをしてしまうと信用が一瞬でなくなってしまう。企業においても信用がなければビジネスは成功しません。信用をなくさないために私どもがきちんとした経理処理・申告をして、経営者さまの説明責任をサポートしていきます」と語る。

1974(昭和49)年に長谷川梅二氏が開業した頃は、クライアントはほとんどいなかったという。多くのクライアントを支える今となっても、決して当時のことを忘れることはない。だからこそ規模の大小にかかわらず、クライアントには「一緒に歩ませていただく」という気持ちで接してきた。「ともに歩み、順調に成長し、事業承継していく。そうした企業を見られるというのは嬉しい限りです」。

やみくもに顧客数を増やすのではなく、長い付き合い合いをモットーとする同社。それは従業員の離職率が低いことにも表れている。「重要なのは事業を継続していくこと。しかし、事業は良い時もあれば悪い時もあります。経営が大変で、資金繰りが大変で、どうしようという時にこそ、力になってあげられる。そんな会計事務所でありたいですね」。



事務所周辺のゴミ拾いや草むしりなど、月に一度、スタッフ全員で地域貢献活動を行っている。



異業種交流を目的とした「宇都宮新協クラブ」の創立30周年記念式典での一枚。現在は新型コロナ感染予防のため活動は控えているが、これまでは勉強会やイベントの開催など、多くの友好の場を設けてきた。



税理士法人長谷川会計事務所
☎028-614-2660(代)
宇都宮市下栗町2921-3長谷川ビル1F
Ⓔhttp://www.hasegawa-zei.jp/



新しく作成したロゴ。上の濃い色が顧問先を、下の淡い色が長谷川会計事務所を表現。「将来に向かってお客さまを伴走し支えていく」という想いが込められている。



所長 岩本 達之氏
(公認会計士・税理士)